



2026年3月13日

各 位

会 社 名 株式会社 駒井ハルテック  
代 表 者 名 取締役社長 中村 貴 任  
(コード番号 5915 東証スタンダード)  
問 合 せ 先 取 締 役  
管理本部長 駒 井 寛  
(TEL. 03-3833-5101)

## 中期経営計画 2026 策定に関するお知らせ

当社グループは『高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する』の経営理念のもと、顧客ニーズに応え、安全で高品質な製品・技術を提供することで社会インフラを支える企業として、持続的成長を果たすべく、このたび 2026 年 4 月をスタートとする 4 ヶ年の中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付の「中期経営計画 2026」をご覧ください。

なお、洋上風車タワー事業につきましては、2025 年 2 月 14 日付に開示いたしました「洋上風車タワー事業にかかる追加設備投資に関するお知らせ」の「3. 洋上風車タワー事業計画」に記載の開始時期について、事業環境等を総合的に勘案した結果、2027 年度に変更いたします。

### 記

#### I. 計画期間

2026 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日までの 4 ヶ年

#### II. 基本方針

1. 事業ポートフォリオ改革
2. 収益強化
3. 人材強化
4. 業務改革 (モノづくり改革)

#### III. 数値目標 (連結)

	2030 年 3 月期 目標 (百万円)
売 上 高	46,000
橋 梁	12,500
鉄 骨	23,000
インフラ環境	10,000
その他	500
営 業 利 益 (営業利益率)	2,000 (4.3%)

以上



# 中期経営計画 2026

2026年 3月 13日

## 株式会社 駒井ハルテック



## 目次

01. KHグループの将来	P. 2
02. 「中期経営計画2023」の振り返り	P. 4
03. 事業環境の見通し	P. 5
04. 「中期経営計画2026」の基本方針	P. 6
05. セグメント別の事業戦略	P. 7
06. 業績計画	P.11
07. サステナビリティ	P.12
08. Appendix	P.13

# 1. KHグループの将来（1）

## 目指すべき将来

- ◆ 再生可能エネルギー施設の拡大やCO2排出削減への取り組みを通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する
- ◆ 優れた人財と技術で高難度物件や新たな社会ニーズに対応し、安心安全な社会インフラを提供する
- ◆ 高い企業倫理と企業統治により、企業活動における透明性と公正性を確保する

## 事業別の将来像

### 橋梁事業

- 橋梁製作技術を承継するとともに、保全補修にも積極的に取り組み、安心安全な社会づくりに貢献する

### 鉄骨事業

- 最高レベルの溶接技術で、超高層ビル鉄骨のトップファブリーケーターとしての地位を堅持する

### インフラ環境事業

- 台風にも氷点下50°Cにも耐える陸上中型風車の設計からメンテナンスまでを提供し、地産地消のエネルギーを継続して届ける
- 洋上風車タワーの生産合理化を推進し、国内洋上風力市場でのシェア獲得を目指す

# 1. KHグループの将来（2）

## 中期経営計画2026の位置づけ

- ◆ 事業構成、生産体制、業務モデル、組織人材に関する議論と検証を重ね、中期経営計画2026において構造改革を加速して「新たな会社像」を目指していく
- ◆ 構造改革が完遂する2030年3月期までの4年間を計画期間として取り組み、次代へ繋げる

中期経営計画 2023  
2024年3月期～2026年3月期

中期経営計画2026  
2027年3月期～2030年3月期

将来ビジョン

構造改革に着手

構造改革の完遂



## 2. 「中期経営計画 2023」の振り返り

### 総括評価

- ◆ 橋梁発注量の下振れ、都市再開発案件の後ろ倒し、陸上風車受注のずれ込み等を背景に、新たな経営課題を把握することとなり、業績の飛躍的向上を主眼とするところから、如何なる環境変化にも対応できる経営体質の強さを追及することとした
- ◆ 業績面は、市場環境の影響で売上減少を余儀なくされたものの、ベース利益と言える新規事業開発費を除く営業利益は12億円（2026年3月期見込）まで増加となった
- ◆ 中期経営計画2023見直し計画に従い、各事業の業務改革、新規事業の立ち上げといった構造改革を着実に展開した

### 3. 事業環境の見通し

#### 橋 梁 事 業

- ▶ 鋼橋新設発注量は、今後想定される案件を踏まえると、年間10万トン程度と予想  
需給バランスより熾烈な受注競争が継続するものと予想
- ▶ 既設橋梁は定期点検により想定以上の劣化が確認されたことから、高速道路の大規模更新・修繕の発注が相応に見込まれる

#### 鉄 骨 事 業

- ▶ 全国鉄骨需要は足元で低調も、都内（東京駅周辺、赤坂・虎ノ門、品川、渋谷、新宿など）において数多くの再開発や大型プロジェクトが予定
- ▶ 建設計画の見直し（工期後ろ倒し）が相次いでいたが、次第に工事着工される見通しにある

#### インフラ環境事業

- ▶ 再生可能エネルギー導入に向けた動きが加速する状況下、台風等災害の影響を考慮した日本型風車、工場等での自家消費電力としての中型風車需要が高まるものと予想
- ▶ 15～20年前に導入され寿命を迎える風車のリプレイス市場の拡大も見込まれる
- ▶ 第2次洋上風力産業ビジョンにて、国内調達比率目標が60%から65%に引き上げられ、フォローの事業環境にある

## 4. 中期経営計画2026の基本方針

### 事業ポートフォリオ改革

- ◆ 洋上風車タワー事業と陸上風車事業を成長させ、新たな事業構成を構築する
- ◆ 橋梁事業は、民間工事と保全補修事業を強化し、事業規模を堅持する
- ◆ 鉄骨事業は、技術優位性を生かし当社グループ事業構成において50%を固める
- ◆ 将来に繋がる新たな鋼構造物製造にも取り組む

### 収益強化

- ◆ 全セグメントにおいて黒字体質を定着させ、連結営業利益2,000百万円の収益基盤を構築する
- ◆ 橋梁事業は、受注活動強化とコストダウンにより、発注低迷においても当社グループの基盤となる収益を堅実に確保する
- ◆ 鉄骨事業は、各種管理レベル強化により収益力を引き上げる

### 人材強化

- ◆ 人材の社内流動化を進め、人材の活躍向上を図る
- ◆ 研修教育の充実、資格保有者増強などの人材の質的向上に努める
- ◆ 積極的な人材抜擢や登用等により、次世代人材の育成を加速する
- ◆ 組織改革等を通じて、人的資源の活用度を引き上げる

### 業務改革（モノづくり改革）

- ◆ IT、DX、AIが駆使された業務環境のなかで、モノづくりが安定的に遂行される工場体制を構築する
- ◆ 生産体制最適化と製造設備最適化により、生産性向上を図る
- ◆ 業務標準化（業務フロー見直し）と人材最適配置により、業務の効率化と付加価値創造を追求する

## 5. セグメント別の事業戦略 \_ 橋梁事業

### 橋梁事業の方針

- ◆ 民間工事、補修更新工事の拡大により売上高と利益を確保
- ◆ 発注量、受注状況、人員状況といった内外環境に適合した生産体制を決定

戦 略 テ ー マ	取 組 内 容
受注強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術提案の立案・検討体制を構築し、技術提案力強化を図る。</li><li>・ 技術営業力の強化により首都圏再開発案件等の受注強化を図る。</li><li>・ 新規事業開拓に取り組み、鋼構造物生産量の増大を図る</li></ul>
橋梁補修更新事業の強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大規模補修更新事業に向けた組織を立ち上げ、収益の増大を図る</li><li>・ 中小規模補修工事の戦略受注により、実績と企業評価を積み上げる</li></ul>
生産体制再構築	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業環境を踏まえ、柔軟に対応可能な全社的生産体制を構築する。</li><li>・ 生産設備への投資および更新による生産性向上を図る</li></ul>
技術者育成と充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 次世代を見据えた人材の流動化を推進するとともに、補修更新事業の拡大に向け、人材の確保・育成に取り組む。</li></ul>

## 5. セグメント別の事業戦略 \_ 鉄骨事業

### 鉄骨事業の方針

- ◆ 人材補強、設備投資、DX変革による生産体制強化を実現
- ◆ 出来高管理、収益管理の強化により、売上高及び収益を確保

戦 略 テ ー マ	取 組 内 容
徹底した出来高計画の遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産計画強化により、頻発する工程変動に左右されない生産体制を確立する</li> <li>・ 生産ラインの最適分割および効率化を進め、ボトルネック要因を排除する</li> <li>・ 追加変更に迅速・柔軟に対応できる組織を構築し、顧客対応力強化を図る</li> </ul>
収益管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約内容の変動をいち早く把握し、先行原価の早期かつ確実な回収を図る</li> <li>・ 契約工程の締結を推進し、工程変動に伴う発生原価の回収力強化を図る</li> </ul>
組織強化と人材配置最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術力・収益力向上に向けた人材の育成・配置を行い、組織強化を図る</li> <li>・ 人材の流動化と次世代リーダーの人材育成に取り組み、持続可能な組織基盤を構築する</li> </ul>
工場設備投資と生産体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ会社を最大限に活かした工場別の製作物選定を行い、生産性向上と収益力強化を図る</li> <li>・ 協力工場のグレード取得を推奨し、製造対応力を備えたサプライチェーンを構築する</li> </ul>

## 5. セグメント別の事業戦略 \_ インフラ環境事業

### インフラ環境事業の方針

◆ 1 MW風車の量産体制の構築

◆ 洋上風車タワーを新規事業として立ち上げ、売上高と利益の確保

戦 略 テ ー マ	取 組 内 容
陸上風車受注強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国内外のリプレース需要に対応する</li><li>・ JCM等活用による海外輸出へ取り組む</li></ul>
1 MW風車の認証取得	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 MW風車の認証を取得し、標準仕様から台風仕様サイトまで対応する</li><li>・ ナセル・ブレード・タワーの生産性向上を図る</li></ul>
洋上風車向けタワーの生産体制構築	<ul style="list-style-type: none"><li>・ タワー合理化生産ラインの設備を構築する</li><li>・ 既存生産体制との融合による合理的な生産体制を構築する</li></ul>
洋上風車関連の事業開発	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 浮体式洋上風車の部品及び鋼構造物の製造への参画を目指す</li></ul>

## 6. 業績計画

### 連結業績目標

		2025/3期 実績	2026/3期 見込み
売上高	橋 梁	15,856	13,400
	鉄 骨	23,452	19,600
	インフラ	712	500
	環境	531	500
	その他	531	500
	計	40,553	34,000
営業利益 (営業利益率)		288 (0.7%)	90 (0.3%)
経常利益		638	310
帰属当期純利益		1,274	180
R O E		4.0%	0.7%
(新規事業開発費)		(706)	(890)
上記を除く営業利益		994	980

百万円

2030/3期  
目標

12,500
23,000
10,000
500
46,000
2,000 (4.3%)
2,000
1,400
4.4%
(-)
2,000

### 中期経営計画2026最終事業年度

#### 連結業績目標の概要

#### ◆ 売上高 460億円

- ・ 橋梁事業は発注見通しが楽観できないなか、売上高125億円を堅持
- ・ 鉄骨事業は首都圏再開発計画を踏まえ、売上高230億円に伸長
- ・ インフラ環境事業は陸上風車の販売拡大および洋上風車タワーの生産開始により、売上高100億円を見込む

#### ◆ 営業利益 20億円

- ・ 新規事業開発費用がなくなること、陸上風車のラインアップ拡充、洋上風車タワーの生産開始により、営業利益20億円（売上高営業利益率4.3%）を見込む
- ・ 利益水準の押し上げにより、R O E 向上に繋げる
- ・ 株主還元については、安定配当を基本に、収益拡大に応じて増配を検討していく

## 7. サステナビリティ

### 基本的な考え方

当社は、サステナビリティ基本方針に基づき、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献していく  
中期経営計画の基本方針と連動し、環境・社会・ガバナンスの視点を経営に組み込んでいく

### 重点取組領域

#### 環境

カーボンニュートラル  
社会の実現に向けて、  
CO2排出量の把握と削減、  
再生可能エネルギー導  
入（洋上・陸上風車事業  
の推進）に取り組んで  
いく

#### 社会

自然災害対応強化（BCP  
等）、安全安心の社会イ  
ンフラづくり 人財開  
発（人材育成、D & I）  
労働安衛生向上に取り  
組んでいく

#### ガバナンス

コンプライアンス徹底、  
人権尊重、ガバナンス  
強化を通じて、経営の  
透明性と公正性を確保  
していく

# Appendix



## ■ 会社概要

### 街をつなぐ・支える・守る

商号	株式会社駒井ハルテック（英訳名 KOMAIHALTEC Inc.）
設立	1883年（明治16年）創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目19番10号
従業員数	620名（2025年3月31日現在）（連結）
資本金	66億1,994万円（2025年3月31日現在）
事業内容	<p>【橋梁事業】 橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修</p> <p>【鉄骨事業】 鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方</p> <p>【インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工</p>
関連会社	<p>【連結子会社】</p> <p>東北鉄骨橋梁（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p> <p>（株）シップス・・・ 印刷・不動産</p> <p>KHファシリテック（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p>

# 沿革

## 創業以来、歴史的な建造物や橋梁の製造に携わり、インフラ構築に貢献

### 駒井鉄工株式会社

1883 創業



1914年  
紀の川橋梁  
(現 河合橋)



1921年  
初代通天閣



1931年  
大阪城天守閣



1970年  
大阪万博  
(イタリア館)

1963年  
京都タワー



1984年  
南備讃瀬戸大橋



1991年  
大阪ワールド  
トレードセンター



1994年  
大阪ドーム



### 株式会社ハルテック

1921 創業



2012年  
三重大学



2023年  
西普天間橋梁



2023年  
役内川橋



2023年  
麻布台ヒルズ  
森JPタワー

### 2010 合併により設立

### 株式会社駒井ハルテック

2012年  
東京スカイツリー®



2016年  
長谷大橋



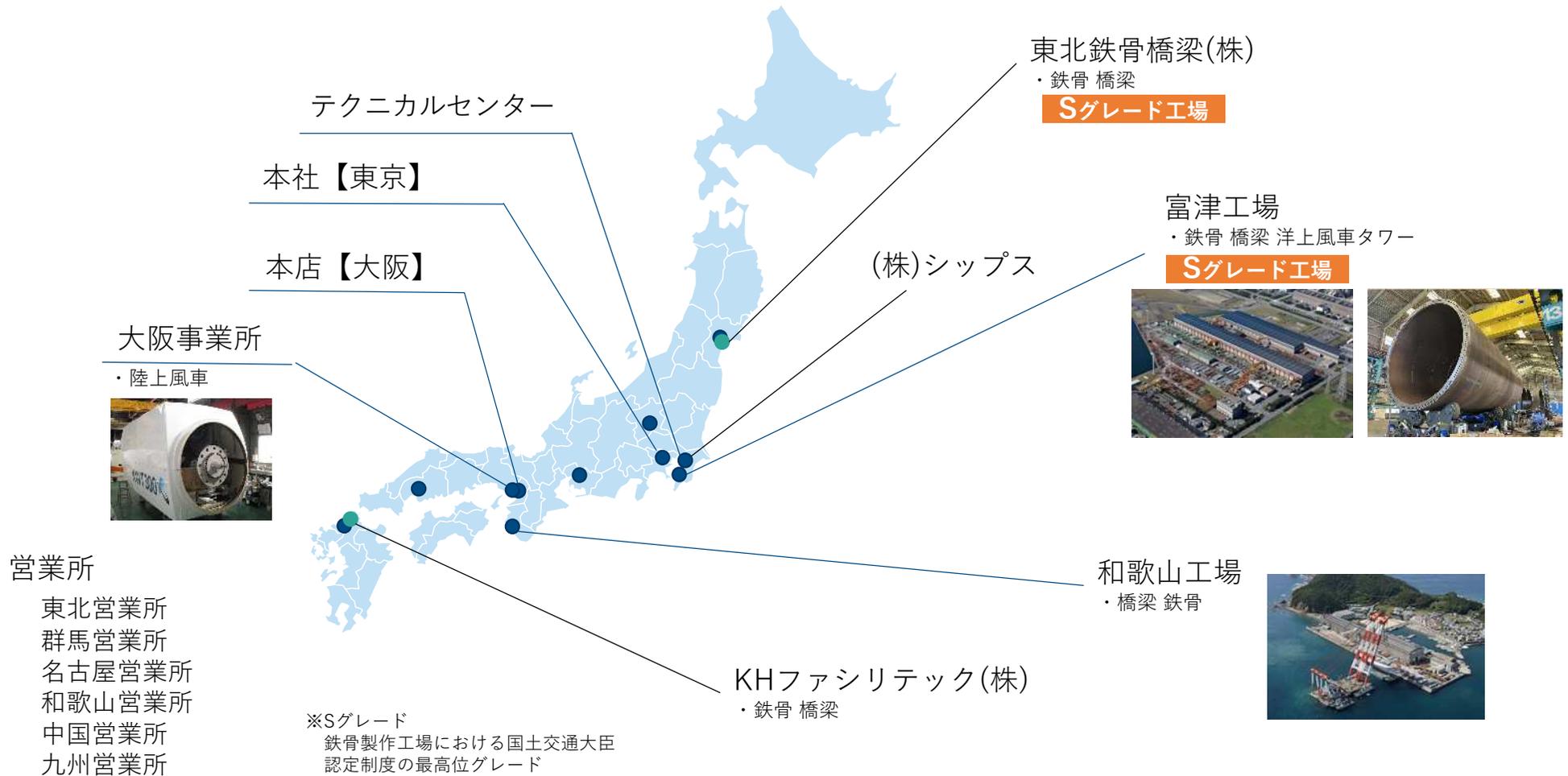
2019年  
国立競技場  
大成建設株式会社様提供



2020年  
三浦市宮川公園



# 事業所・工場



お問い合わせ先

**株式会社 駒井ハルテック**

住所 〒110-8547 東京都台東区上野一丁目19番10号

TEL 03-3833-5101

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。